

「幸運の神様」から好かれるには、
どうしたらいいのでしょうか？

厳しい修行や難しい勉強が
必要なのでは……？

いえいえ、決して
そんなことはありません。

幸運の神様から愛されて
ご**贖**^{ひいぬき}されるために
必要なことは、

誰にでも実践できる
ごく簡単なことなんです。

たとえば、

「人を褒めて笑顔にする」

「受け取るよりも、

与えることに重心を置く」

「ご先祖様に手を合わせる」

などなど。

それなら私にもできそうだ――。
そう思った方も多いはずです。

でも、ちょっと待ってください！

「神様」という言葉のイメージから、
いつも機嫌よく、
ニコニコとあたたかく見守って
くれている存在……などと、
神様をあまく見てはいけません。

私たち人間が、不義理を働いて
不徳^{ふとく}を積もうものなら、
一瞬で運命をひっくり返すことなど、
神様にはたやすいことなのです。

この本では、

今まで誰も教えてくれなかった
神様との付き合い方を
紹介していきます。

お金、仕事から

**人間関係、恋愛・結婚まで
効果抜群の方法が満載です。**

受け取る準備はできましたか？

それでは、

「幸運の神様とつながる

すごい！習慣」を

お伝えしていきますよう！

はじめに

「もしかして、私ってツイてるかも!」「最近、いいことが続いているなあ」という実感はありますか? もしあるなら、あなたは幸運の神様とつながれているのかもしれない。

では、なぜ幸運の神様があなたを応援してくださっているのでしょうか。その答えはシンプル。あなたの日々の習慣が、美しく清められているからです。

幸運の神様にご**贖**^{ひいさ}されて運がどんどん上がっている人は、人としてあるべき姿を目指して、たんたんと努力を積み重ねています。つまり、**ふだんの行動や言葉づかいを見直すことが、運を上げるいちばんの近道だと知っているのです。**

シンプルで気持ちがいい習慣を身につけるには、特別な才能が必要なのでは……と思われるかもしれませんが、そんなことはありません。

「人に信頼されるために筋を通す」「いいことやいい人、いい物にお金を手渡す」「自分に与えられた仕事に一生懸命に取り組む」「本当に大切にしたい人との縁を大切にする」など、できることから一つずつ始めてみればいいのです。

大切なのは、その習慣を続けること。

幸運の神様とつながる習慣は、どれも簡単なものばかりですが、ちょっとやってみておしまいというものではありません。誰も見ていない場所でもコツコツと、毎日毎日繰り返し身につけていくことに意味があります。

私たちは、ツイていないことが起きると、「運を上げなくちゃ!」「神様にご贖されたい!」と、つい大きなことから変えようとして、力が入ってしまいます。しかし、苦しいときこそ、小さな習慣の見直しが必要です。私は、神様に応援していただ

ける人生を歩むために、小さなことから一つずつ行動を変えていきました。その結果、今では幸運の神様とつながっている実感があります。

この本では、私が実践している幸運習慣をすべて書きました。

継続は力なり。毎日、ちよつとでもいいから頑張つて続けていけば、その行動はやがて習慣になります。そして、**習慣が美しく清められていくと、幸運の神様とつながれるようになります。**

もし、「運に見放されているかも」と感じるなら、小さなことから一つずつ、生まれ変わるつもりで習慣を変えてみてください。

幸運の神様は、生まれ変わろうと努力している人が大好きです。心を清めてよりよく生きようとする姿を、ぜひ神様にご覧いただきましょう。

中井耀香

PART 1

★
良い縁が運ばれてくる
「人づきあい」の習慣

神様にご贔屓ひいきされるために大切なのは「筋すじを通すこと」 22

「悪縁あくえん」と感じたら、思い切って縁を切る 26

一人の時間を大切にすると見えてくる本当に必要な縁 30

良縁とつながる「つるみの法則」 34

愛と時間とお金を悪縁から守るには、見返りを求めない 38

受け取るよりも、与えることを喜びにする 42

相手にダメ出しするよりも、尊重することが大切 46

魂と魂が響き合う友と出会うためには 50

PART 2

★
右肩上がりの好循環が
生まれる「お金」の習慣

「お金」は「龍神様りゆうしんさまのおつかい」と心得こころえる 56

生命力に満ちた「生き金いきがね」は、福の神そのもの 60

いいこと、いい人に回るようにお金を使う 64

「死しに金がね」ではなく、「生き金」になるようにお金を使う 68

大金を受け取るために、自分の「器」を大きくする方法 72

龍神様が、ご褒美をあげたくなる人になる 76

あなたの心が満たされる金額はいくら？ 80

お金に愛される「美しい魂」とは 84

PART 3

＊ 生きがい、働きのがい 実感できる「仕事」の習慣

- 目の前の人が笑ってくれるように、全力で働く 90
- 「使命」は向こう側から自然にやってくる 94
- 無欲に貢献する人に、ライトワークが授けられる 98
- 自分の力が活かせるならば、とことんまで働いてみる 102
- 最大の喜びは、「誰かに求められること」 106
- 「自立」がこの世に生まれてきた全員に共通する使命 110
- 働いた倍以上の価値が返ってくる働き方 114
- 「自分の使命」は、外に探しに行っても見つからない 118

PART 4

＊ 本物の幸せが続く 「恋愛・結婚」の習慣

- 神様に応援される恋愛と結婚とは 124
- 運命の人に巡り合うためには、行動が必要 128
- 周りに「紹介したい」と思われる人になる 132
- 次につながる上手な恋の終わらせ方 136
- 「悪縁」の恋愛は、痛くても苦しくても切るしかない 140
- いつまでも良好な関係が続く極意 144
- パートナーを損得で選ぶと、大損する 148
- 後悔しない恋愛・結婚の選択とは？ 152

PART 5

＊ 価値観の根っこを清める 「家族」の習慣

- 親から伝えられてしまった「負の価値観」を手放そう 158
- 魂に刻まれた葛藤^{かつとう}を浄化できるのは、あなたしかない 162
- 正しいと思い込まされている「価値観」から自由になる 166
- 親子関係の呪縛^{まじわり}から解放たれる方法「内観」^{ないかん} 170
- 親の介護や看取り^{みとり}で直面する苦しみと向き合う 174
- 子どもがまっすぐ育つ「いい親」の条件 178
- 遠津御祖神^{とのおつみおやのかみ}にお守りいただくには？ 182
- あなたの承認欲求を満たせるのは、あなただけ 186

PART 6

＊ 天と地の神様とつながる 「内在神」の習慣

- 自分の内側に眠る「内在神」^{ないざいしん}を磨くには？ 192
- 陰には陰の、陽には陽の幸せがある 196
- 身を引き裂かれるような不幸に遭ってしまったら 200
- 「幸せ」は感じる能力に支えられている 204
- 不運を好転させる「言霊の力」^{ことだま} 208
- 御霊を磨いた先に現れる「注意しなければならないこと」 212
- 心の支えが欲しくなったときこそ、地に足をつけて生きる 216
- 「道がつく生き方」を追究し、過程を楽しむのが人生の喜び 220

PART 1



良い縁が運ばれてくる
「人づきあい」の習慣

〔初出〕 本書は、『PHPスペシャル』（2017年2月号～12月号）にて連載された「神様にご最厚されるすごい習慣」をもとに、再編集したものです。

〔装丁〕 一瀬錠二（Art of NOISE）

〔編集協力〕 小笠原綾（『PHPスペシャル』編集部）

神様にぐも鼻肩ひいきされるために大切なのは「筋すじを通すこと」

私は古神道こしんどう数秘術家ひじゅつかとして、日本古来の神道の考えに基づき、運を開く方法や邪じやを祓はらう方法を学んできました。その中でも、最も尊敬する神道家の師匠に厳しく教えられてきたのは、「人づきあいの筋を間違えてはいけない」ということでした。

縁結びの神様がもつとも嫌うのは、人の縁を盗む「人泥棒」です。例えば、あなたの知り合いのAさんから、Aさんの友人のBさんを紹介されたとします。あなたとBさんは話が盛り上がり、気づけばAさんが知らないところで直接やりとりをするような間柄となっていました。しかし、これこそ筋違いの始まり！

逐一ちくいちAさんを経由してBさんとの約束を取り付けたり、Bさんと仲良くするなというわけではありません。問題なのは、Bさんとの関係の発展をAさんに報告していないこと。「AさんのおかげでBさんと仲良くさせてもらっています。ありがとうございます」とAさんに感謝を伝えるのが、筋を通すということなのです。

＊筋を通さないと起こってしまう負ふの循環

筋を通さなかったうえに、紹介してもらった人との間に金銭関係がからんでくると最悪です。Aさんの知らないところで、あなたがBさんとお金の貸し借りをしたり、物の売り買いをして得とくをしたとしましょう。そこでは多少の利益が得られるかもしれませんが。しかしそのあとになって、あなたがAさんから人脈うばを奪うばい、Bさんから利益を奪うばったように、利益を奪い合うような別の人間関係にからめとられ、Bさんから稼かせいだ利益以上のものを失うことになります。

そして、人泥棒という不徳ふとくな行ないに厳しい目を向ける縁結びの神様から見放され、一気に運氣が下がります。さらには、「奪おう」「盗もう」「自分だけ得をしよう」

と、あなたの利益を邪に奪おうとする人があなたの周りにどんどん集まってきました。「運」という字は、訓読みで「はこぶ」と読みます。人泥棒の話からもわかるように、不運も幸運も、運んでくるのは人です。直接神様が幸運を運んでくださるのではなく、人が神様のおつかいとなって運んでくるのです。

そして、筋を間違えず、縁をつないでくれた人への感謝を忘れない人の行ないを、縁結びの神様はちゃんと見ています。「あなたに紹介したい人がいるの！」と言ってくれる人が現れたら、それは神様のおつかい。神様の代わりに、良縁りようえんというご褒美ほうびを持つてきてくれているのです。

もし、幸運にもあなたが良縁に恵まれたら、「私はどうやったら他の人の役に立てるだろうか」「私はどんな縁を人に手渡せるだろうか」と考えて、行動を起こしましょう。あなたから人へと良縁を運ぶのです！神様は何を言うのかではなく、何をするのかを見えています。

神様も納得するような縁結びを人に手渡していけば、あなたに必要な人との良縁を、いつもベストタイミングで用意してくださるはずです。

★筋違いの人に出会ったら、結界を張るつもりでバツサリと

ひとたびあなたが筋を通すようになって、人との縁を大切にしようになると、筋違いをしている人が見えてきます。あなたのもとに、「あれもちようだい、これもちようだい」と近寄ってくる人が現れたら要注意。与えた以上のものをしつこく求めてくるような人は、自分の領域に足を踏み込ませないようにブロックしてください。筋を通せないのなら、その人との縁はそれまで。縁を切るのは悪いことではないので、結界を張るつもりでバツサリ切りましょう。

いい人に囲まれて、素敵な人とつながりたいと願うなら、他人に振り回されず、自分が大切にしたい人たちとの筋を通すまで。このスタンスを守っていけば、良縁は自然とつながっていくので何の心配もいりません。縁結びの神様に愛され、良縁を運び、運ばれる人になるために、筋を通していつてくださいね。

まとめ

筋を通して、良縁を運び・運ばれる人になろう。

「悪縁」と感じたら、 思い切って縁を切る

人にはあらゆる縁が無数につながっています。良縁もたくさんつながっていますが、悪縁と同じくらいつながっています。そして、どの縁を引き当て、どの縁に割く時間を増やすかで、運命はゴロゴロと変化していきます。

人の人脈を盗まず、義理堅く筋を通していくと、良縁に恵まれるようになります。良縁を見極められるようになると、つきあう相手によって体調の変化に波があることに気づき始めます。幸運を与え合うような関係だと体は軽くなるのですが、「この人」といって、どうも調子が狂うな」というときは体が重くなるのです。人と会った

翌朝、気だるくて目覚めが悪くなった経験はありませんか？ それは、「この人とつきあうのをやめようよ」と体が心に語りかけているからです。

私は、古神道の数秘術や、風水から導き出した独自の開運方法をご相談者様にお伝えしています。みなさんは、運を良くしようと前向きな人ばかりなのですが、なかには批評・批判や羨望の念をぶつけてくる人もいます。強烈な念を受けると、体が一気に重くなります。一晩では疲れが取れず、数日経つてもだるさが続くこともあるのですが、私はこの違和感こそ大切にしています。

なぜなら、最も怖いのは、人づきあいの違和感や疲労感に鈍感になってしまうことだからです。「この人と一緒にいたくない」と叫びをあげる体を見捨てて突然倒れるよりも、悲鳴を受け止めてちゃんと労わりたい。体は違和感という形で注意を喚起して、悪縁から遠ざけようとしてくれているのですから。

＊「悪縁」は切ったほうがいい

もし、一緒にいてとにかく疲れるような相手なら、その人との縁はためらわずに切

ってください。そして、「この人と一緒にいると楽しい」と感じる人とだけつきあうようにします。自分の心と体に素直に従ってください。日本人は人との縁を尊ぶので、縁を切るのをためらいがちです。しかし、ずたずたに傷ついている心を無視してまでつながろうとする人づきあいは、はたして本当に必要でしょうか。

生きている人は全員、ご先祖様が代々命をつないでくださったおかげで今を生きています。数々の奇跡が重なって生まれた今世での時間を、我慢してくだらない人と過ごすために使わなくて、命を無駄にしているようなものです。なくした時間は一億円を積んでも取り戻すことはできません。だから私は、苦手な人とずるずるつきあって苦しんでいる人には、「今すぐ縁を切ってください」と伝えていきます。女子会から帰ってきたら体が沈んで起き上がれなくなったり、会話をしている最中に突然眠くなったりするのなら、無理してその人たちとつきあわなくていいのです。大切な自分を守るために、縁を切ってください。

特に要注意なのは、いつもイライラしている人と、汚くて不潔な人、見るからに不穏な空気をまとっている人です。神様は清浄な空間に宿るので、感情の揺れが激しく

て心が荒れている人や、相手に不快感を与えるような身なりをしている人が大嫌いです。そもそも、そんな人とはつきあいたくありませんよね。

「人との縁を切ってもいいのかな……」という罪悪感はいち切って手放してください。神様は良縁を本気で願う覚悟をしています。

私は常々、どんなに人から嫌われてもいいけれど、神様から疎まれるような不徳だけは絶対に積まないと心に誓っています。たくさんのご先祖様が幾重にも命をつないで授かった自分の命。一秒たりとも無駄には消費できません。それに神様は、人から享受した幸運を、また別の人に手渡して好循環を生み出す人をご慕います。いつまでも不快な人間関係を断ち切らず、愚痴や悪口、文句を言っている不届き者には見向きもしないのです。

一緒にいるとやる気が出て、時間が経つのも忘れてしまうような人とだけつきあいましょう。人づきあいは主体的に選択していいのです。

まとめ

無理・無駄・不毛な悪縁は、思い切って断ち切る。

一人の時間を大切にすると見えてくる 本当に必要な縁

男女関係も、友人関係も、仕事関係も、家族関係さえも、つきあうのが苦しいならば縁を切ればいいのです。無理して一緒にいる必要はありません。

それでも縁を切れないのは、「みんなに嫌われたくない」「一人になるのが怖い」というエゴがあるからです。本当に人から愛される人には、「人から好かれない」というエゴがありません。そして、孤独を恐れませんか。精神的にも経済的にも自立しているので、自分の選んだ道を悠々と歩んでいます。そして、心に余裕のある姿に引き寄せられるように、良縁や幸運が自然と集まってくるのです。

自立した人は、人づきあいの時間配分が秀逸です。他者との関係に費やす時間が50パーセント、自分との対話に費やす時間が50パーセントと、バランス感覚に優れています。多くの人は、相手を優先して自分を後回しにしがちです。しかし自立した人は、自分との対話の時間を確保し、自らの清濁を併せ呑んで静観したうえで、自分を肯定しています。他者との心地よい人づきあいを結ぶには、自己肯定感の安定は必要不可欠だと、本能的にわかっているのです。

★ 一生で一人の心友に出会えたら

自分との対話には静かな寂しさと孤独があります。しかし、孤独を苦にせず、むしろ一対一の自分との対話の時間を愛せるようになると、本当に必要な縁が見極められるようになります。

「私がつもう一回結婚式をしたら、誰が来てくれるかな？」とつぶやくと、周りの人たちはみんな、「行くよ」と言ってくれます。しかし、誤解を恐れずに言うと、私はみんなのことを友だちだと思っていない。みんなのことが嫌いというわけでは

ありません。ただ、「本当の親友」という感覚がないのです。

新しい友、昔からの友、親しい友、たまに会う友など、友だちにもたくさんレベルがあります。しかし、魂と魂がつながった「心友」は、一生に一人出会えるかどうか。もしかしたら死ぬ直前に出会えるかもしれないし、出会えないまま一生が終わっても不思議ではありません。私は、50年かかってやっと一人だけ心友と出会いました。その人とは魂でつながっている感覚があるので、二人の間には一切の損得勘定がなく、お互いに無償で奉仕ほうししたくなります。そう、損得ではなく、魂がつながてくれるのが、本物の縁なのです。

もし、本当の心友に出会いたいと願うなら、その日まで孤独を友に生きることです。一生に一人だけでも心友に出会えたら、「いい人生だったかも」と死ぬ直前に思えるはず。そのためには、嫌いやな人とはバッサリ縁を切り、本当に大切にしたい人を見極めましょう。

結界を張るつもりで悪縁をバッサリ切り、対話を深めて自分を認め、他者も認められるようになると、愚痴が思い浮かばなくなります。そして、人づきあいの清濁を中

和できるようにになります。たとえ人から完膚かんぷなきまでに批判されても、逆に過分かぶんに褒めちぎられても、「あら、そう」と流せるようになるのです。そうになると、相手の言動を冷静に観察できるようになります。さらに、人との適度な距離が保たもてるようになるので、結界の中にずかずかと土足で入り込んでくるような人には、「私はあなたと関係を持ちたくない」と、ピシヤリと断れます。

自分との対話のためにも、不毛な人づきあいに割く時間は削けずってください。人と一緒にいて苦しいのなら、孤独でいる勇氣を持ちましょう。孤独を楽しめる人には、同じように自立した人との縁を、神様がご用意くださいます。

周りを見渡せば、友だちや知り合いがたくさんいるでしょう。しかし、そのうち何人と深くつながっていますか？ 人との縁は無数につながっています。自分にとって必要な縁を見極めて、大切に育てていきましょう。

まとめ

孤独を愛せるようになると、同じように自立した人との縁がやってくる。

良縁とつながる 「つるみの法則」

この世は寸善尺魔。良いことは少なく、悪いことはたくさん起こります。これは自然の摂理。人づきあいにも当てはまります。

「私はこんなにやったのに、あの人は何もしてくれなかった」という被害者意識の強い人がいます。人からしてもらったことを棚に上げて、自分がしてあげたことばかりを主張する残念な人たちです。断言しますが、被害者意識の強い人は、良い人づきあいができません。

「あんなことを言われた」「こんなことをされた」「何もしてもらえなかった」という

被害者意識が強いと、人づきあいの災難が多発します。そして、不運に好かれるようになり、人を介して困難な出来事ばかりが降りかかります。

ある女性から、「旦那が女を作って出て行ったので、子どもと二人になった。頑張っ
て働いていたのにリストラまでされて最悪だ」とのご相談を受けました。確かに悲惨な状況です。しかし彼女は、その原因をすべて人のせいになります。旦那のせいで、浮気相手さえいなければ、子どもが言うことを聞かない、経営者が悪い……愚痴は止まりません。「うわーん、いい子いい子して」と駄々っ子の子のようです。

＊自分の人生には、自分で責任を持ちましょう

被害ばかりを主張する人は、神様の目には「被害に遭うのが好きな人」として映ります。彼女のように、「かわいそうな私を慰めて」と泣きついてくる人がいたら、「一生被害者ぶってれば？ 神様は慈悲深いから、あなたは被害を受けるのが好きなんだ
と思っ
て、もつともつと大きな被害を用意してくれるよ」と私はキツパリ伝えています。夫が悪い、子どもが悪い、あいつが悪いと言っているけれど、そんな人生を選ん

だのは自分です。被害を受けるのが嫌なら、他人を加害者に仕立てたり、グチグチ言うのをやめるしかありません。

誰に何を言われようと、自分の人生は自分で責任を持って生きること。人のせいに
して自分だけが傷ついたように見せるのは、誰かを加害者に仕立て上げるといふ暴力
です。人に振り回されている暇があるなら、「どうやったら理想的な人づきあいがで
きるようになるか」に焦点を当ててください。そうしないと、いつまでたっても悪縁
の泥沼から足を抜け出せません。

人生は、死ぬ間際まで何が幸いするかわかりません。受け止め方を変えれば、人づ
きあいの最悪な経験さえも、心を強く育てる糧に変えることができます。不運の訪れ
を、幸運へ移行するための転機と捉えるか、泥沼にはまったままグチグチ言っただけ
すのか、決断するのは自分です。

本当はこんな人と友だちになりたいのに、現実とは全然違う人につきあっていてつら
いなら、理想的な人づきあいができそうな場所に、自分から積極的にアプローチして
飛び込まなければ、何も始まりません。

一緒にいる人を変えると人づきあいは一変します。これを「つるみの法則」と言い
ます。目の前の「つるみ」が自分にとって居心地が良くないなら、「この人たちと
は、今は一緒にいなくていいや」という感覚でつるみを変えます。今は必要なくて
も、ご縁があればまたどこかでつながればいいし、それきり会うことがなければ、そ
れまでの人たちだったということです。

「この人とは合わないな」という違和感があったり、なんとなく心が喜ばなかった
り、会うと体が重くなったりするのなら、そのサインを無視しないこと。疲れているの
に無理してつきあっていると、「誰と一緒にいたら楽しいと思えるのか」という感覚
も鈍くなってしまうです。

好きでも嫌いでもない相手と、ずるずると何年もつきあっているなんて言語道断。
「あの人と一緒にいたい」と思ったら、今のつるみから離れてください。そして、今
すぐ「つるみ」を変えましょう。

まとめ

窮屈な「つるみ」は捨てて、理想の「つるみ」に移行しよう。